



Misericordia di Osaka



Misericordia di Osaka



Misericordia di Osaka

ミゼリコルディア大阪

Ukon Takayama

ミゼリコルディアとは

1. その生い立ち

1588年、イタリア中部にあるプラートの町、ポルタ・フィアという場所で、パン屋を営んでいたバルトロメオ・ディ・トマーゾ・ブオンフィオリという人が、巡礼地ロレットへの悔い改めの巡礼を企画しました。これに参加した人たち29人は、彼とともに、1588年5月1日、悔い改めの印に、ごつごつしたマントをまとい、悪天候に備えた巡礼用のマントを肩にかけ、巡礼用の杖を手を持って出発しました。ロレットの聖マリアに捧げる贈り物を持って出かけた5日間の旅のあと、当地で司教の出迎えを受けました。司教は、彼らの信心に感動し、ロレットの小聖堂に掲げられていた十字架上のイエスの聖画を彼らに贈りました。巡礼者たちはこの思いがけない贈り物に感動し、プラトへの帰路の途中、他の人たちに奉仕するための活動会を創設することを決めました。この活動会は、既存のものが、会員たちのみの援助に限定していたことに対し、すべての隣人への援助に従事する活動会とすることを決めました。プラトに帰ると、この聖画を一時的に、**Madonna delle Carceri**（刑務所の聖母）の聖堂に収め、この聖画を納めるべき礼拝堂と活動会の本拠地の建設のために寄付を募りました。同年7月22日、彼らはこの活動会に**Compagnia del Pellegrino**（巡礼者の会）という名前を付けました。1589年5月20日、巡礼者の会の礼拝堂は、被昇天の聖マリアに捧げられ、荘厳に聖別されました。その翌日、十字架の聖画をそこに移しました。1589年8月22日、ミゼリコルディアの会則が書かれ、承認にされました。こうして、現在のミゼリコルディアの活動が始まったのです。

ミゼリコルディアは、現在**Arciconfraternita della Misericordia di Prato**が中心なっています。プラートの巡礼団から始まったこの信徒活動会ともいえる信心会が、歴史の流れに対応して、各地の様々な、現在でいう「信徒徒使職活動の団体」との提携で、活動範囲を広めていったことから、**Arciconfraternita**と呼ばれるようになりました。

2．Confraternitas とその活動とは

ラテン語で、**Confraternitas-atis** と呼ばれるこの活動は、信徒たちの間での集いを促し、博愛と信心活動を実施し、礼拝を深めることを目的としたキリスト教信徒たちの活動の集いです。その構成会員は、信徒たちのみであり、世俗の生活にとどまる人たちです。したがって、この人たちには誓願を立てる義務もなければ、共同生活をする必要もありません。また、自分の財産や活動をこの集合体のために提供する義務もありません。

このような信徒たちの活動の集いは、時代の流れや、イタリアの各地によってさまざまな名称でよばれてきました。その中で有名な名称に、**Confraternitas, Fraternitas, Agape, Caritas** などがあります。

中世時代、社会保障という、疎外された人たちに対する最低保証といったものは、全くありませんでした。しかもそれは近代まで放置されたままになっていました。しかし、それは同時に、そのままではいけない、神への愛のために活動しなければならないという機運が高まり、キリスト信徒たちが、お互いに助けあうために集うという主な動機がうまれたのです。

このような信徒たちの活動の集いは、貧しい人たちや孤児たち、病気、特に不治の病気に苦しんでいる人たち、刑務所の囚人たち、死刑宣告を受けた人たち、危険に晒されている若い女性たち、への援助といった、様々な社会的役割を負うことになりました。落ちこぼれの人たちや、悔い改めた売春婦たちの再生に手を差し伸べ、サラセン人たちの捕虜となり、奴隷にされたキリスト信徒たちの解放にも尽力しました。特に人道的な価値の活動として、伝染病患者たちへの援助や、放置されたまま亡くなった死者、殺人によって亡くなられた人たち、貧しくみはなされてなくなっている人たち、伝染病の犠牲者たち、外国人、身元の分からない人たちの埋葬など、があります。このような暗黒の時代、激動時代の大問題に対し、信徒たちの集いの活動は、常に適切な対応を果たしてきました。

この信徒たちの活動の集い **Confraternitas** は、14世紀から18世紀の間に、大きな発展を見ました。そしてヨーロッパ全体に広がっていきました。それらの多くは、重要で、経済的にも強力になっていき、政治の世界に直接関与することはなくても、幾世紀にも亘って、市民の社会生活の問題に少なからず影響を与えてきました。また、自分たちが住んでいる地域の社会的、芸術的、経済的発展に寄与してきました。

活動の規模が大きくなるに従い、教会機構や、聖職者階級、観想修道会及び大衆との間の、相互の結びの役割を果たしながらも、自分たちの居場所を保つべく努力してきました。自分たちの活動への勧誘も熱心を実施していました。また、各小教区の活動も支援してきました。しかし時の流れとともに、多くの**Confraterinitas** は、聖職者及び小教区との関係から、重い歴史的遺産に押しつぶされて、本来の信徒たちの信仰及び愛徳的活動に従事することが出来なくなり、教会のイヴェントとか行列といった外的活動のみを強いられることになりました。ただ、経済的に強力な**Confraternitas**はこの集いに参加している信徒たちの寄付や貢献によって、病院、貧しい人たちや巡礼者たちの宿泊施設、孤児院や危険に晒されている少女たちの保護施設を設立したり、小聖堂や集会所を建てたり、宗教教育の普及のために学校を建て、運営したり、墓地を監視したりして、自分たちの活動を続けてきました。

文化芸術面では、各本部、小聖堂や礼拝堂、その他関連建物の中には、たくさんの貴重な彫刻や絵画、そして壁画や装飾品、金銀細工品、絨毯などが現在まで残されており、また図書館には、貴重な資料も数多く保管されています。その他、音楽や典礼聖歌にも力を入れてきた。

マタイの福音書にインスピレーションを受けたミゼリコルディアの7つの活動は、福音的博愛の6つの活動の継承として実施されています。飢えに苦しんでいる人たち、渇きに苦しんでいる人たち、巡礼者たち、衣服をはぎ取られてしまった人たち、病に苦しんでいる人たち、刑務所で服役している人たちの世話に従事することですが、これらの活動に、中世時代に7つ目の活動として、死者の埋葬活動が加えられたのです。

Confraternitas は、歴史的価値、伝統、文化的芸術的遺産を大切に守り、伝えるといった役割の他に、信仰と愛徳という福音書に示されている二つの王道を歩むという、昔からの召命のために、教会内において、また、教会の指示と命令に基づき社会において、活動するという重要な役割を果たす義務を持っています。

信仰、それは、教会の共同体の中で、また社会の中で、常に生きいきとした存在を示すといった福音的使命における霊的完成を指して、キリストにおける愛と務めを証しすることであり、神の民に属しているといういっそう明確な自覚を持つことです。愛徳。それは、貧しい人たち、愛と励ましと手助けを必要としている人たち、孤独に苦しんでいる人たち、途方にくれている人たち、物的および精神的困窮に陥っている人たちのために、ミゼリコルディアの活動を通して、キリストにおける兄弟愛を示すことです。

「ミゼリコルディア」の名のもとで、信徒たちは、今なお、教会内で、また社会において慈善活動と救助活動に積極的に従事して、その存在を示しています。ミゼリコルディアの活動は、その原点に結ばれていながらも、歴史の流れの中で、根本的な変更を余儀なくされています。彼らの病人や困窮者たちの救助活動は、非常に高く評価されてはいますが、特にヨーロッパ諸国に法律により、世俗化されました。しかしながら、それでも、ミゼリコルディアも含めた信徒たちの活動の集い**Confraternitas** の精神、神の民に属していることによる特徴：福音の精神、教会の精神を保持し続けています。

3．ミゼリコルディア大阪

日本では高山右近親子が熱心に取り組んだミゼリコルディアの組（慈悲の組）の活動として有名で、その後2013年6月大阪で発足、現在に至ります。

http://www.com-unity.co.jp/miseri/
